

-地域と大学を結ぶ- りえぞん No. 12

編集発行：武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室

充実する本学の地域連携活動

コロナ禍においても、オンライン等を利用し様々な活動が実施されました。また、対面での活動も再開しつつあります。[対象期間：2022.4～2022.9]

学部・学科における取組み

【 日本語日本文学科 】

阪急西宮ガーデンズ内「スタジモにしのみや」で子ども向けオンラインイベントに登場

設楽ゼミでは、こども達が能動的に学ぶ力を育むコンテンツ「あめかちゃん」のプロジェクトに参画しています。

このコンテンツは、(株)コトバノミカタが開発したもので、今回のセミナーとして、阪急西宮ガーデンズ内「スタジモにしのみや」で、オンライン・プログラム「あめかちゃんと遊んで学ぶ！漢字のひみつ」が開催されました。プログラムでは、ゼミ学生が登場し、漢字の部首「冠」の付いた漢字を紹介しました。

ゼミ活動では、通学する地域の社会貢献に加わることで、座学の学びを地域へ還元し、こども達と交流する楽しさを学びます。



[学科 HP](#) より

【 教育学科 】

武庫川団地の夏祭り「高須フェスティバル」に、アートと食で参画

8月6、7の両日、3年ぶりの開催となった武庫川団地の夏祭り「高須フェスティバル」。7日11時から

の昼の部では、教育学科版画工作藤井ゼミ3年チー



[本学 NEWS](#) より

【 健康・スポーツ科学科 】

「フェムテック」の認知が広がりつつある中での『生理×スポーツ』の取り組み

アスリート向けの吸水シューズを制作している株式会社 azuki とタイアップし、「アスリート向け吸水シューズ」の若い世代への普及や商品開発をスタートさせます。女性スポーツにおける生理の健康問題に向き合い、学生の負担軽減につながるような細やかな取組みは「女子大にしかできないこと」であり、また、「フェムテック」の認知が広がりつつある環境の中、同社と連携して「アスリート向け吸水シューズ」の学生への普及と、商品開発に取り組んでいくことにしました。

同社によれば、企業がアスリート個人をサポートしているケースやスポーツのチームと連携している事例はあるそうですが、大学との取り組みは初めての事例とのことです



[本学 NEWS](#) より

【 生活環境学科 】

武庫川団地のシンボル「赤胴車」で生活環境学科の学生たちがワークショップを開催

武庫川団地の「赤胴車広場」で7月2日、生活環境学科まちづくりコースの授業「フィールドデザイン演習Ⅲ」を履修する3,4年生8人がランプシェードを作るワークショップ「赤胴車灯工房」を開催しました。「赤胴車灯工房」は球形とテント型の2種のランプシェードを作るワークショップです。

ワークショップは小学生以上を対象に参加を呼び掛け、全6回がすべて予想を上回る人気ぶり。2日は親子や家族連れが参加しました。

フィールドデザイン演習はフィールドワークを通して地域の課題解決や魅力創出につながる企画を提案する実践型の授業です。今回、学生たちは阪神電鉄とUR都市機構の協力を得て、武庫川団地をフィールドに調査を実施。長く地域の足として活躍した阪神武庫川線の「赤胴車」の車両が武庫川団地の広場に設置され、地域のコミュニケーションスペースとしてオープンして7月で1年になることから、「武庫川団地及び赤胴車の活性化」をテーマに据え、高齢化やコロナ禍等の影響で地域の交流が減っている現状の課題解決を目指しました。



[本学 NEWS](#) より

【 情報メディア学科 】

千鳥屋宗家の応援Instagramを開設

情報メディア学科の藤本憲一教授ゼミの4年生16人が千鳥屋宗家（本社・西宮市）とコラボして、Instagramの応援メッセージを発信しています。

同社と藤本ゼミは、2021年9月から、和菓子の試作体験を含めた工場視察や実店舗見学、オンライン会議などを通じて企業研究・商品研究を重ねてきました。

2022年2月からは、「インスタ映え」による波及効果を目指して、同社商品（本千鳥饅頭など）を女子大生ならではの感性で制作したオリジナル写真・動画で紹介する、応援Instagramを開設しました。（Instagramは[コチラ](#)）

今後も、SNSマーケティングの実践的なアクティブ・ラーニング学習の一環として、随時、更新していく予定です。



[学科 HP](#) より

【 食物栄養学科 】

学生が考案の冷凍弁当、商品化決定。学内でお披露目会開催

冷凍弁当「わたしゴハン。あなたゴハン。」は、(株)ティーケーシン（西宮市鳴尾浜）が200種類以上の冷凍弁当を製造、販売しています。これらのメニューに加えて、学生たちは「おいしい、バランスの良い手作りごはん健康寿命を延ばそう！」をテーマに、2021年9月より各班に分かれて、食物栄養科学部 福田也寸子教授らの指導のもと、メニューの開発に取り組みました。11月に「2021学内レシピコンテスト」として調理実習会が行われ、本学教員やティーケーシン担当者が審査、2022年1月に各賞の発表会が行われました。優秀賞、学生賞、奨励賞などの受賞レシピの中から、今回はティーケーシン賞に選ばれた2作品の商品化が決まりました。

学生たちが開発した、武庫女オリジナルレシピの冷凍弁当は、[「わたしゴハン。あなたゴハン。」公式オンラインショップ](#)から購入できます。



[本学 NEWS](#) より

西宮北口キャンパスで世代間交流イベントを開催

2022年4月に開設した西宮北口キャンパスで、8月4日、近隣の小学生を対象に、すいか割りや夏野菜クイズのイベントを開催しました。

西宮北口キャンパスの近隣の方から、「地域住民と子どもとのコミュニケーションを構築する機会の減

少が課題の一つ」とお聞きし、西宮北口キャンパス内にある栄養科学研究所の世代間交流イベントとして、食物栄養学科の学生たちが主体となって企画し、西宮市広田地区社会福祉協議会の方々や応用音楽学科の協力を得て、実施されました。

子どもたちと地域の皆さんに楽しんでもらうイベントとして、すいか割りや、じゃがいも・トマト・ナス・きゅうりなど栄養科学研究所の畑でとれる夏野菜に関するクイズ、トランペットやバイオリンなどさまざまな種類の楽器を使用した「すいかの名産地」などの演奏が行われました。夏野菜を景品にしたじゃんけん大会も盛り上がりました。

すいか割りやクイズに全力で取り組んでいる子どもたちの姿がほほえましく、保護者の方々も楽しんでいる様子でした。



[本学 NEWS](#) より

【 食創造科学科 】

栄養機能食品「ねぎのチカラ」の楽天市場発売を目指す授業で中間発表会

本学の研究力から生まれた栄養機能食品「ねぎのチカラ」の楽天市場発売を目指す「E コマース(EC)販売実践授業」が、楽天、兵庫県、EC 運営会社の協力を得て、行われています。単位の無い課外授業にもかかわらず前期は約 90 人が受講。7 月 25 日に開かれた中間発表会ではグループ別に販促企画をプレゼンテーションし、審査で上位 2 チームが選ばれました。後期は実践販売に取り組めます。



[本学 NEWS](#) より

【 建築学科 】

「ボランティア・サポート・プログラム」を実施

令和 4 年度 第 1 回目「ボランティア・サポート・プログラム」を実施しました。

本学と兵庫国道事務所は、2008 年 3 月、近畿の大学では初めて国土交通省「ボランティア・サポート・プログラム」協定を締結しています。兵庫国道事務所から清掃用具等の支援を受けながら、本学上甲子園キャンパス（西宮市戸崎町）と国道 2 号が接する法面と歩道部分の美化清掃活動を行ってきました。

本年度 第 1 回目は 5 月 19 日（木）に実施。建築学科 1 年生と建築学部教員、上甲子園キャンパス職員計 33 名が参加し、法面の除草作業、歩道植込み内の雑草とり、ゴミ拾いを行いました。

作業後には、雑草・吸い殻・お菓子の袋等のごみが 31 袋、空き缶やペットボトルの不燃ごみが 1 袋と予想以上に多くのごみが集まりました。「ゴミ不法投棄厳禁」の張り紙が設置されているものの、多くのごみが捨てられているのが現実です。

第 2 回目は景観建築学科 1 年生の皆さんに参加を呼び掛け、後期に実施する予定です。



[本学 NEWS](#) より

【 応用音楽学科 】

学生が「YB ファブのナツフェス！」に参加

7 月 17 日（日）にやぶ市民交流広場（養父市八鹿町）で「YB ファブのナツフェス！」が開催されました。

企画協力した応用音楽学科「音楽活用実習」受講生に加え、音楽療法専修の学生だけでなく、卒業した昨年の受講生も参加しました。「音楽療法体験会」では地域の方々との交流もあり、「学生たちのこれからに期待します！」とのお声もいただきました。



[学科 HP](#) より

【 薬学部 】

「有償制インターンシップ」が開始

8月中旬から「有償制インターンシップ」制度が始まります。有償制インターンシップは、薬局やドラッグストアに給料をもらいながら実習に行くイメージで、文部科学省も推奨しています。今年は、42名の応募者から選考の結果薬学科9名、健康生命薬科学科2名が選ばれました。アルバイトとは異なる教育の一環であり、学生にとっては、低学年のうちにプロの薬剤師や登録販売者の業務を間近で見て、病気を持った患者さんや薬がほしいお客さんと責任をもって接することで、今後の勉学にも生かせる経験を得られます。



[学部 HP](#) より

【 看護学科 】

1年ぶりに「まちの保健室」を開催

8月3日（水）、「まちの保健室」をららぽーと甲子園で開催。

通りがかりの方だけでなく、ポスターやチラシなどをみて来場された方もいらっしゃり、91名の方々にご参加いただきました。今回は「血管年齢測定」「血圧測定」「健康相談」と西宮市薬剤師会の先生方による「おくすり相談」に加えて、KAGOME社の「ベジチェック®」を新しく実施しました。ベジチェックは、手のひらをセンサーにあてるだけで簡単に推定野菜摂取量を測定できます。来場者の方々は、新しい健康測定の内容に興味深々でした。



[学科 HP](#) より

【 経営学科 】

生理用ナプキン無料サービス「トレルナ」の実証実験が開始

「急に生理が始まった」「ナプキンを忘れた」。トイレの個室で人知れず焦った経験のある人は多いのでは。

そんなとき、トイレで当たり前にナプキンを受け取ることができれば——。そんな女性の気持ちにこたえるサービスの実証実験が始まりました。QRコードをアプリで読み取り、トイレで生理用ナプキンを無料で受け取れるサービス「トレルナ」。

6月8日から8月4日まで、公江記念館の2、3、7階の女子トイレ個室にデバイスを設置しました。

女子大学として身近な「生理」にまつわる課題に切り込み、女子学生の声を集めようと、高橋ゼミ（高橋千枝子教授）のゼミ生が、トレルナを開発した株式会社「ネクイノ」（大阪市北区）との共同プロジェクトに参画。

利用状況をチェックしてアンケート等で使用感やニーズを調査して改善につなげるとともに、生理にまつわる悩みや女性ならではの健康課題の把握を進めます。



[本学 NEWS](#) より

西宮市貝類館のPR企画を発表

経営学部の学生が取り組む実践学習として、西宮市貝類館（西宮市西宮浜）の魅力をPRする企画発表会を7月29日、同館で行いました。

経営学部の2、3年生14人が、「西宮市の貝類館の魅力をもっと広く知ってもらい、来場者を増やす」ためのPR企画を5月から開始。

4グループに分かれ、貝類館から「来館者の層が偏っている」「自然環境、生活文化との関わりなどの広いテーマでの館の魅力が発信できていない」などの課題を聞き取り、貝類館の見学、来場者や学芸員へのインタビューなどのフィールドワークを行い、最終発表会に臨みました。

「阪神タイガース新規女性ファン獲得・強化プロジェクト」の最終発表を実施

経営学部の実践学習（本田一成教授）では、2、3年生10人が、プロ野球球団「阪神タイガース」運営会社の阪神電気鉄道株式会社 スポーツ・エンタテインメント統括部と新規の女性ファン（TORACO）獲得・強化に向けてのプロジェクトに取り組んできました。8月3日、甲子園歴史館内の多目的ホール内で企画案のプレゼンテーションが行われました。

アンケートのデータやインタビューを元にした学生のプレゼンテーションからは、野球観戦初心者でも楽しめるように「ペンライトを使った音楽ライブのような演出」「野球ルール解説ブックの提供」、女性ファンが安心して観戦できる「女性専用シートの開設」「パウダールーム・更衣室の設置」「観戦シートのスペース拡張」、SNS戦略の強化に関連して「甲子園内での通信環境の改善」「他球団のバズった投稿事例から SNS 別の発信戦略」「練習風景の Vlog 配信」や「女性ファンが父親と観戦すると、1人無料キャンペーン」、グッズやスイーツメニュー開発など多岐にわたる提案が行われました。



本学NEWSより

地域・自治体等との連携

共通教育「学び発見ゼミ」で学んだ学生が、TOWERminiららぽーと甲子園店と協同し、店舗に特設コーナーを開設

共通教育科目「音楽を通してみる世界（大学 学び発見ゼミ、共通教育部 長谷川裕紀講師）」を受講した学生20人がTOWERminiららぽーと甲子園店と協同して特設コーナー「ムコジョミュージック」を8月10日に開設しました。

特設コーナーは「地元」・「20代女性」を中心とした購入層へのさらなるPRを目的とし、学生は3グループに分かれて、一押しのアーティストや西宮出身アーティストを紹介するためのPOPを作成したほか、定額制音楽ストリーミングサービス「タワーレコードミュージック」と連携し、学生が選曲した「Z

世代が聴く夏のY2Kソング」など3つのプレイリストを公開しました。



本学NEWSより

ブラウンライスボランティアがウォーク・ザ・ワールド大阪にボランティアとして参加

国連WFP協会主催の「WFPウォーク・ザ・ワールド大阪2022大阪」が5月29日、3年ぶりに万博記念公園で開催され、ブラウンライスボランティアが運営を手伝いました。

このイベントは、途上国の子どもたちの飢餓をなくし、世界の飢餓の現状に関心をもってもらうことを目的に国連WFP協会が2005年より横浜で開催しているチャリティウォークです。参加者から寄せられた寄付金は、国連WFPが子どもたちの健全な成長を促し、教育の機会を広げるために行う学校給食支援に活用されます。当日は晴天に恵まれ、1,000人を超える参加者が公園内の10キロ、または5キロのコースを歩きました。本学からはブラウンライスボランティアをはじめ、教職員含め41名がボランティアとして参加し、運営をサポートするとともに多くがウォーキングにも参加しました。



本学NEWSより

本学で育った鳴尾いちごがかき氷に

教育学科が栽培している鳴尾いちごがかき氷になり、5月17日、阪神電車「鳴尾・武庫川女子大前」駅前の「武庫女ステーションキャンパス」にある「Lavy's Cafe」で1日限定販売されました。

学生たちは販売当日、学校教育館屋上で赤く実ったいちご約120粒を収穫。獲れたてを店に持ち込み、下ごしらえまで手伝いました。販売は30食限定で、ほぼ予約で売り切れました。



[本学 NEWS](#) より

「鳴尾ふれあいイベント2022」のメインイベントで、学生がステージパフォーマンスを披露

本学の学生や、鳴尾地域に関わりの深い諸団体が企画・運営する「鳴尾ふれあいイベント2022」が4月16日、阪神電車「鳴尾・武庫川女子大前」駅の駅前公園を中心にメインイベントの「駅前フェス-canvas-」を実施。学生たちによるステージイベントが行われました。

「駅前フェス-canvas-」ではまず、書道部の有志2人が巨大なキャンパスに大書する書道パフォーマンスを披露。さらにマンドリン部や箏曲部の演奏、チアリーディング部、エアロビックダンス部、ダンス部の演技などが行われ、集まった人たちから大きな拍手が送られました。

また、武庫女ステーションキャンパスの「Lavy's カフェ」では16日、認知症の人が接客をする「まあいいか cafe(注文をまちがえるレストランテ)」も開催され、元カフェテリア経営の男性ら2人がホールに立ちました。「まあいいか cafe」は認知症の人の「働きたい」「人と接して社会とつながりたい」という希望をかなえようと京都で始まった活動で、

「Lavy's カフェ」では9月の「世界アルツハイマー月間」から本格的に開催する予定です。



[本学 NEWS](#) より

社会連携推進課の取組み

洲本市と域学連携協定を締結

4月8日、洲本市の「大野菜の花迷路」で上崎勝規市長と瀬口和義学長による締結式が行われました。

域学連携とは、大学生と大学教員が地域に入って、そこで暮らす人々とともに地域に眠っている資源を掘り起こし、地域が抱えている課題を発見し、課題解決に向けて地域づくりに継続的に取り組むというものです。

洲本市とは、同市が推進する地域活性化のための「域学連携事業」に、本学経営学部が参加し実践活動を行ってきましたが、今後、協定を締結することにより、様々な分野での一層の域学連携を促進します。

協定に基づき、今後取り組む地域連携事業については、2020年度新設した本学経営学部の第1期生の初めてのゼミナール活動として、洲本市大野地区において栽培される菜種油を活用したシャンプーバー（固形シャンプー）の商品開発を行います。



[本学 NEWS](#) より

第2回ビジネスアイデアコンテストの募集開始

起業マインドを持ち、MUKOJO Vision がうたう「一生を描ききる女性力を。」を体現する学生を育てようと、教育研究社会連携推進室が主催し、女性活躍総合研究所が協賛。「私が立ち上げたい小さなビジネス」をテーマに在學生にアイデアを募集し、10月に審査を実施して最優秀賞等を決定します。

兵庫県丹波県民局と食文化ツーリズム事業を推進

丹波地域ならではの食文化ツアーを企画開発することを目的に、丹波県民局と業務委託契約を締結。本学からは情報メディア学科の大森ゼミと経営学科の山下ゼミが参画。一過性ではない持続可能な企画となるよう、大学の専門知識を活用した取組みを進めています。

活動期間は大森ゼミが2年間、山下ゼミが1年間となっており、その期間で食文化ツアーの企画開発に挑みます。

阪神電鉄と包括連携推進会議を開催

本学と包括連携協定を締結している阪神電鉄との定期協議の場である、包括連携推進会議を開催。本学からは山崎副学長、阪神電鉄からは小川常務取締役を筆頭に関係者が参加し、両者の連携活動について協議を行いました。

地域を対象とした連携推進支援事業(学内公募)

教育研究社会連携推進室では、本学の地域での教育研究活動のさらなる活性化を目的として、「学生が地域の自治体や自治会、その他企業や団体等と連携して実施する地域の活性化に資する事業で、且つ、学生の研究やアクティブラーニング、更には教員の研究等に有効と認められる事業」を募集し、資金的援助を行っています。

4年目となる今年は、特色のある3件の応募があり、瀬口学長、大坪室長および専門委員の協議を経て、それら全てを採択しました。

《支援事業一覧》

- ◆食物栄養科学部 食物栄養学科 教授 大滝直人
地域貢献を通じた管理栄養士・栄養士としてのコンピテンシー獲得のための養成カリキュラムの提案
- ◆教育学部 教育学科 教授 神原一之
地域にある小学校と大学が連携した学習支援活動のセカンドステージ
- ◆健康運動科学研究所 嘱託助手 森田彩
ライフステージにおける地域住民の健康調査に関する連携活動

※本事業は次年度も募集を予定しています。

◆—————◆
連絡先：本館 5階 社会連携推進課 谷澤・大谷
内線：6210、6212 / E-mail: shakai@mukogawa-u.ac.jp
HP：collaboration.mukogawa-u.ac.jp